

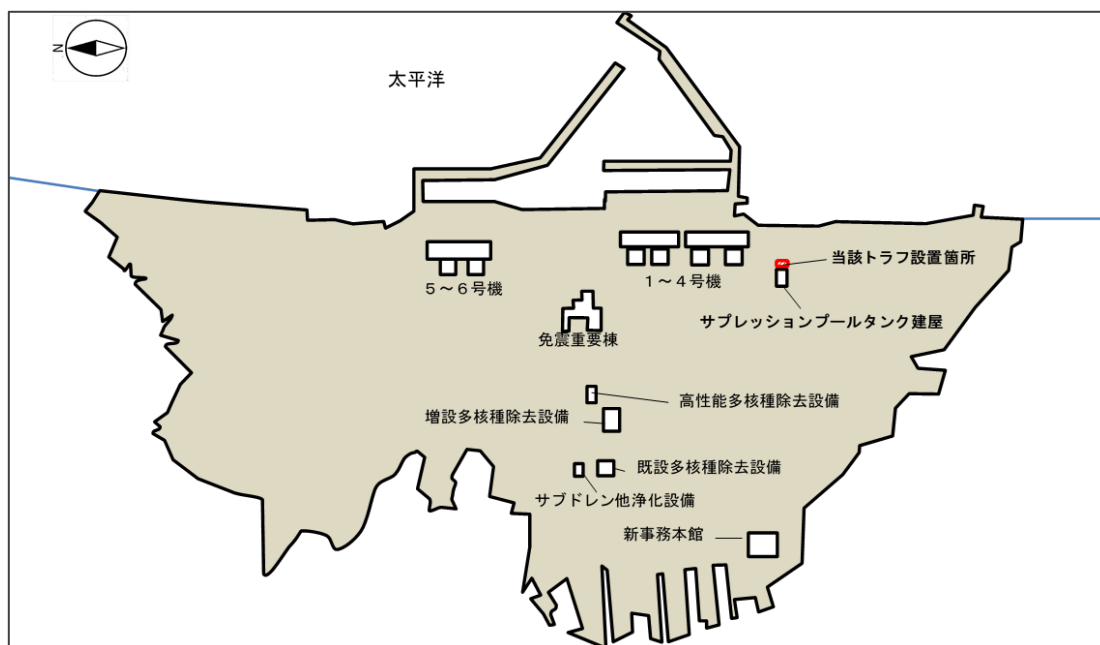
## 福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日  
令和2年8月25日（火）
- 2 確認箇所  
サブプレッションプールタンク建屋付近
- 3 確認項目  
建屋内RO循環設備A系トラフ内における漏えい検知器の作動後の対応状況
- 4 確認結果の概要  
令和2年7月8日にサブプレッションプールタンク建屋<sup>※1</sup>付近に設置されている建屋内RO循環設備<sup>※2</sup>A系トラフ<sup>※3</sup>内の漏えい検知器が警報を発報した。東京電力社員が警報の発生したトラフ内を確認した結果、トラフ内に水が約10cm程度溜まっていたことが確認されたが、溜まり水の放射能濃度や塩分濃度の分析結果から雨水と判断されていた。しかし、溜まり水に全ベータ放射能（58Bq/L）が検出されており、8月17日に再度、トラフ内の配管の詳細点検が実施されたことから、現状を確認した。（図1）
  - ・当該トラフには雨水浸入防止のための止水材が施工されていた。なお、部分的に止水材の補修が行われていた。（写真1）
  - ・東京電力によると、当該トラフ内を8月17日に点検した結果、配管からの系統水の漏えいがないことを確認したため、溜まり水は雨水と判断したとのことであった。

※1 サブプレッションプールタンク建屋：東日本大震災前、プラントで使用した水を再利用するための設備があった建屋

※2 建屋内RO循環設備：1～4号機建屋等の地下階には東北地方太平洋沖地震による津波、炉心冷却水の流入、地下水の浸透等により、塩分を含んだ水が滞留しており、淡水化装置（建屋内RO等）を用いて滞留水中の塩分を除去し、一部は原子炉への注水に再利用している。

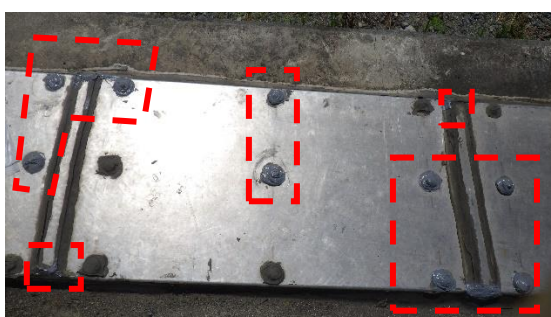
※3 トラフ：蓋付きU字溝



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)  
建屋内RO循環設備トラフの外観



(写真1-2)  
止水材の施工状況の一例  
(赤枠が止水材の補修が行われていた箇所)

- 5 プラント関連パラメータ等確認  
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。